

## ひふみ神示 7 サブタイトル 念の力(合氣の道)

## その22

「ねんじつつやれ。神の為と念じつつやれば神の為となる。小さい行為でも霊的には大ききはたらしめるのじゃ。自分ということが強くなるから発展ないのじゃ。行き止まるのぢや。我れ善しとなるのぢや。調和が神の現れであるぞ。霊と調和せよ。肉体と調和せよ。人と調和せよ。食物、住居と調和せよ。世界と調和せよ。嬉し嬉しぞ。一生かかってもよいぞ。遅くないのぢや。自分の中のケダモノのため直しにかからねばならん。悪いクセ直さねばならん。これが第一歩、土台ぢやぞよ。

よきことは人にゆずりて人をほめたてるこそ人の人なる。

敬愛のまこと心にまことのりまこと行う人ぞ人なる。

思想と申すのは広い意味で、太神から出ているのではあるが、幽界からの力が強く加わっているのぢや。念と申すものは神界からの<sup>じきじき</sup>直々であるぞ。悪い氣、断たねば念とはならんぞ。

天のこと地にうつす時は、地の力であるように、地の息吹き通うように、弥栄するように、念を地の力と現れるように、正しくうつして下されよ。邪氣入ってはならん。

今の武器は幽界の裏打ちあるぞ。神界の裏打ちある武器でなくてならん。マコトの武器ぞ。ビックリであるぞ。念から作り出せよ。その念のモトつくれば、神から力与えるから、この世の力と現れるぞ。念の凸凹から出た幽界を抱き参らさねばならんのだ。中々の御苦労であるなれど、幽界を神界の一部に、力にまで引き寄せねばならん。

念が新しき武器であるぞ。それでは人民まわりくどいと申すであろうなれど。物事には順と時あるぞ。元のキから改めて下されよ。尊き御役。

念なりと、今の人民申す思想はマコトの念ではないぞ。思想は思想ぞ。念とは力であるぞ。実在であるぞ。喜びであるぞ。喜びは神ぞ。弥栄。

見える幸福には限りがあり、見えぬ幸福は永遠であるぞ。道にいそしめ。道に融け入れよ。モノは無くなるぞ。霊は永遠に栄えるぞ。毎日毎日掃除してもホコリはたまる。絶えず心の掃除良いか。洗濯よいか。目に見えず、上、下、左、右、前後から何となく迫って来るものをサニワせよ。サニワしてから受け入れねばならん。自分の魂を育み、生長さしてくれる大切な物は目に見えんところから流れて来るぞ。和せよ。調和せよ。調和とは、上から、より清い所から来るものに従うことぞ。いよいよが、一四一四となるぞ。雨の神、風の神、地震の神、岩の神、荒れ神、大地震の神。

行く水にも雲にも咲く花にも神の御心あるぞ。それを見る目無いからわからんのぢや。掃除をすれば分かる。掃除結構。拝むは拝まんよりましであるぞ。しかし拝んでばかりでは病氣は治らん。金は儲からん。拝むばかりで金儲け出来たり病氣治ったりすると思うたら間違いぞ。道にいそしめ。

道行くところに喜びあるぞ。喜びあるから病気も治るのじゃ。金も出てくるのぢゃ。おかげあるのぢゃ。喜びかみぢゃ。縦には神と神界と和し、横には人と環境と大和して行くところにこそ、生きの生命の嬉し嬉しあるのであるぞ。

本当にモノを見、聞き、味わい、消化していかならんぞ。地の上にあるもの、人間のすること、そのすべては霊界で同じことになっていると申してあろうが。まず霊の世界の動き大切。霊の食物、霊の生活、求める人民少ないのう。これでは片輪車、いつまでたってもドンテンドンテンじゃぞ。そのものを見、そのものに接して下肚がグッと力のこもって来るものはよいもの、ホンモノであるぞ。キはすべてのものに流れ込むもの。信仰は理知的にも求められる、全き情である。真理を理解するのが早道。確信となるぞ。

神も人間もおなじであると申してあろう。同じであるが違ふと申してあろう。それは大神の中に神を生み、神の中に人民を生んだためぞ。自分の中に、自分新しく生む時は、自分と同じ型のものを生む。大神弥栄なれば、神も弥栄、神弥栄なれば人民弥栄ぞ。困るとか、苦しいとか、貧しいとか悲しいとかいうことないのであるぞ。道ふめと申すは、生みの親と同じ生き方、同じ心になれよと申すことぞ。人民いくら頑張っても神の外には出られんぞ。神いくら頑張っても大神の外には出られんぞ。」

・ ・ その 23 ひふみ神示 7 サブタイトル 念の力(合氣の道)

読み解き

「ねんじつつやれ。神の為と念じつつやれば神の為となる。小さい行為でも霊的には大ききはたらきするのじゃ。自分ということが強くなるから発展ないのじゃ。行き止まるのぢゃ。我れ善しとなるのぢゃ。調和が神の現れであるぞ。霊と調和せよ。肉体と調和せよ。人と調和せよ。食物、住居と調和せよ。世界と調和せよ。嬉し嬉しぞ。一生かかってもよいぞ。遅くないのぢゃ。自分の中のケダモノのため直しにかからねばならん。悪いクセ直さねばならん。これが第一歩、土台ぢゃぞよ。」

ねんじつつやれ。神の為と念じつつやれば神の為となる。小さい行為でも霊的には大ききはたらきするのじゃ。ねんじつつやれ。神の為と念じつつやれば神の為となる。小さい行為でも霊的には大ききはたらきするのじゃ。(仙骨前に集め鎮めた心で神の為と思いながら行為する。たとえゴミ一つ拾う様な小さな行為でも霊的には大きな働きになること)

自分ということが強くなるから(自分の私の思い強くなるから)発展ないのじゃ。我れ善し(自分が善ければ)となるのぢゃ。

調和が神の現われであるぞ。霊と調和せよ。肉体と調和せよ。人と調和せよ。食物、住居と調和せよ。(相手を受け入れよということ、霊を受け入れよ。肉体を受け入れよ。人を受け入れよ。食物、住居を受け入れよ。世界を受け入れよ。ただし相手の言いなりではない。相手を拝み認めたくえで、共に光りに向かうこと)

自分の中のケダモノのため直しにかからねばならん(我善しというケダモノを直すこと)。悪いク

セ直さねばならん。(我れ善しのクセ)

よきことは、人にゆずりて、人をほめたてるこそ、人の人なる。(手柄は、人に与えよ、そして褒めよ、それこそ人の人)

敬愛のまこと心に、まことのり、まこと行ふ、人ぞ人なる。(人を敬い愛あるマコトの心に、マコトのり＝真実の言葉話し＝言葉通り行ふ人ぞ人となる)

なにか遠い昔おじいちゃんから聞いたような言葉です。

・ ・ その 24 に続く

ひふみ神示 7 サブタイトル 念の力(合氣の道)

・ ・ その 24 ひふみ神示 7 サブタイトル 念の力(合氣の道)

「思想と申すのは広い意味で、太神から出ているのではあるが、幽界からの力が強く加わっているのぢや。念と申すものは神界からの直々<sup>じきじき</sup>であるぞ。悪い氣、断たねば念とはならんぞ。

天のこと地にうつす時は、地の力であるように、地の息吹き通うように、弥栄するように、念を地の力と現れるように、正しくうつして下されよ。邪氣入ってはならん。

今の武器は幽界の裏打ちあるぞ。神界の裏打ちある武器でなくてならん。マコトの武器ぞ。ビックリであるぞ。念から作り出せよ。その念のモトつくれば、神から力与えるから、この世の力と現れるぞ。念の凸凹から出た幽界を抱き参らさねばならんのだ。中々の御苦労であるなれど、幽界を神界の一部に、力にまで引き寄せねばならん。

念が新しき武器であるぞ。それでは人民まわりくどいと申すであろうなれど。物事には順と時あるぞ。元のキから改めて下されよ。尊き御役。

念なりと、今の人民申す思想はマコトの念ではないぞ。思想は思想ぞ。念とは力であるぞ。実在であるぞ。喜びであるぞ。喜びは神ぞ。弥栄。」

読み解きます

思想と申すのは広い意味で、太神から出ているのではあるが、幽界からの力が強く加わっているのぢや。(思想は頭で考えるもので)、広い意味では大神から出ているのであるが、幽界(人間の影の思い、我善しノ思い、が作り上げた霊的世界)からの力が強く加わっている。

念と申すものは神界からの直々<sup>じきじき</sup>であるぞ。悪い氣、断たねば念とはならんぞ。(念と云うのは神界からの直々＝自分の直霊＝良心からの思い)悪い氣(我れ善しの思いの氣)、断たねば念とはならんぞ。

天のこと地にうつす時は、(神界のこと現界にうつす時に、つまり思いを実現するには)地の力であるように、地の息吹き通うように(良心の思いは地と繋がった氣の流れとなる良心の思いは地息吹き、総てを育てる)、弥栄するように、(続くように)念(を地の力と現れるように、正しくうつして下されよ。邪氣(私の思い我れ善しの思いは、自分の肉体に蓄えている氣の量、我で使うことが可

能、私の思いは地が枯れる、破壊する)、入ってはならん。

今の武器は幽界の裏打ちあるぞ。(人間の影の思いが集まった幽界からの武器であるぞ、破壊) 神界の裏打ちある武器(良心の思い「神界」から出た思いの武器、育てる)でなくてならん。マコトの武器ぞ。ビックリであるぞ。

念から作り出せよ。その念のモトつくれば、(念のモトとは広げた意識を仙骨前に集めた心の状態をつくり、心を無にすれば、神が体を使い) 神から力与えるから、この世の力と現れるぞ。

念の凸凹から出た幽界を抱き参らさねばならんのだ。中々の御苦労であるなれど、幽界を神界の一部に、力にまで引き寄せねばならん。(幽界を神界に引き上げる)

念が新しき武器であるぞ。それでは人民まわりくどいと申すであろうなれど。物事には順と時あるぞ。元のキから改めて下されよ。尊き御役。

念なりと、今の人民申す思想はマコトの念ではないぞ。思想は思想ぞ。念とは力であるぞ。実在であるぞ。喜びであるぞ。喜びは神ぞ。弥栄。

・ ・ その 25 に続く

#### その 25 ひふみ神示 7 サブタイトル 念の力(合氣の道)

「見える幸福には限りがあり、見えぬ幸福は永遠であるぞ。道にいそしめ。道に融け入れよ。モノは無くなるぞ。霊は永遠に栄えるぞ。毎日毎日掃除してもホコリはたまる。絶えず心の掃除良いか。洗濯よいか。目に見えず、上、下、左、右、前後から何となく迫って来るものをサニワせよ。サニワしてから受け入れねばならん。自分の魂を育み、生長さしてくれる大切な物は目に見えんところから流れて来るぞ。和せよ。調和せよ。調和とは、上から、より清い所から来るものに従うことぞ。いよいよが、一四一四となるぞ。雨の神、風の神、地震の神、岩の神、荒れ神、大地震の神。」

#### 読み解きます

見える幸福には限りがあり、(現れ出た幸福は有であり悪でありアクである。) 見えぬ幸福は永遠であるぞ(見えぬ幸福つまりは思いの状態のまま、現れ出ないモノは無であり、善であり喜びである)。道にいそしめ。(自分の今与えられた仕事に精を出せ、それを通して神への道を歩め) 道に融け入れよ。(その道に入り込め、そのものになりきる) モノは無くなるぞ。霊は永遠に栄えるぞ。毎日毎日掃除してもホコリはたまる。(毎日反省して祓い清め、光りを向いても、動くときアクがたまる、絶えず心の掃除良いか。洗濯よいか。) 目に見えず、上、下、左、右、前後から何となく迫って来るものをサニワ(自分で善いものかどうか判定)せよ。サニワしてから受け入れねばならん。

(サニワのやり方として、自分に善いものは神氣と同様に下肚に力がみなぎります。まずサニワのもの、相手全体を吸い入れて下肚に響かせるとそのひびきが何処までも鎮まってくると、神氣であり、鎮まらずに頭に、胸に、腹に留まる様に感じるモノは邪気である。この区別を自分ですることをサニワという)

自分の魂を育み、生長さしてくれる大切な物は目に見えんところから流れて来るぞ。和せよ。調

和せよ。調和とは、上から、より清い所から来るものに従うことぞ。(調和とは受け入れて、何処までも下肚に鎮まりが深まる感覚のもの)

いよいよが、一四一四となるぞ。雨の神、風の神、地震の神、岩の神、荒れ神、大地震の神。

・ ・ その 26 に続く

#### その 26 ひふみ神示 7 サブタイトル 念の力(合氣の道)

「行く水にも雲にも咲く花にも神の御心あるぞ。それを見る目無い(そのものをもっと知ろうとする心がないから)からわからんのぢゃ。掃除をすれば分かる。掃除結構。拝むは拝まんよりましであるぞ。しかし拝んでばかりでは病気は治らん。金は儲からん。拝むばかりで金儲け出来たり病気治ったりすると思うたら間違いぞ。道にいそしめ。(今ある仕事に精を出せ)道行くところに喜びあるぞ。喜びあるから病気も治るのじゃ。金も出てくるのぢゃ。おかげあるのぢゃ。喜びかみぢゃ。縦には神と神界と和し、横には人と環境と大和して行くところにこそ、生きの生命の嬉し嬉しあるのであるぞ。

本当にモノを見、聞き、味わい、消化していかならんぞ。地の上にあるもの、人間のすること、そのすべては霊界で同じことになっていると申してあろうが。まず霊の世界の動き大切。霊の食物、霊の生活、求める人民少ないのう。これでは片輪車、いつまでたってもドンテンドンテンじゃぞ。そのものを見、そのものに接して下肚がグッと力のこもって来るものはよいもの、ホンモノであるぞ。キはすべてのものに流れ込むもの。信仰は理知的にも求められる、全き情である。真理を理解するのが早道。確信となるぞ。」

」

読み解きます

それを見る目無い(そのものをもっと知ろうとする心がないから)からわからんのぢゃ。掃除をすればわかるとは、(自分の掃除と云うこと、神の歡びが光となってキ真善美愛となって現われるということですから、常に光りに向いて、真善美愛を求めているかということを中心の掃除、それを実行しているかで体の掃除ということ)。神を拝むは拝まんよりましであるぞ。しかし拝んでばかりでは病気は治らん。金は儲からん。拝むばかりで金儲け出来たり病気治ったりすると思うたら間違いぞ。

本当にモノを見、聞き、味わい、消化していかならんぞ。(心を向け我の氣をもたずに直霊ノ状態で見、聞き、味わい、受け入れる)地の上にあるもの、人間のすること、そのすべては霊界で同じことになっていると申してあろうが。まず霊の世界の動き大切(霊的動きが重要)。霊の食物(褒め言葉のこと)、霊の生活(思いを神の光に向けた生活)、求める人民少ないのう。これでは片輪車、いつまでたってもドンテンドンテンじゃぞ。そのものを見、そのものに接して下肚がグッと力のこもって来るものはよいもの(その 25 で解説済み)、ホンモノであるぞ。キはすべてのものに流れ込むもの。信仰は理知的にも求められる、全き情である。(信仰とは言霊の真理を理解するのが早道)。確信となるぞ

・ ・ 27 に続く

